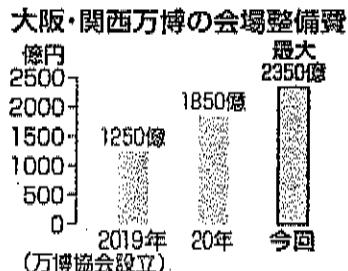


万博整備費 最大2350億円

2025年大阪・関西万博を運営する日本国際博覧会協会は、コスト膨張に見合った万博の本質的な価値を示しているとは言い難い。海外パビリオンの建設遅れに魯殿される運営面の拙さに加え、説明不足が費用を負担する事業者や納税者の不信を増幅させている。

パビリオンも建設遅れ

2025年大阪・関西万博の会場整備費



会場の石毛博行事務総長は20日、「西村康稔経済産業相や吉村洋文大阪府知事らと会談し、資材価格や人件費の高騰を要けて会場整備費が500億円上振れし、最大2350億円になると報告した。20年に続く2回目の増額で、当初の約1.9倍となる。

整備費は政府と府・大阪市、経済界が等分に負担することになっている。3者は対応を検討するが、25年4月の開幕に向けた機運の高まりに欠ける中、一層の公費負担拡大を避けられない見通しとなっている。会談はオンラインで実施。吉村氏は「説明は不十分だ。協会に改めて質問し、回答を踏まえて判断した」と述べた。

大阪・関西万博会場整備費の上振れを巡る最近の動き

- ▶ 会場整備費が2300億円規模に上振れと報道
- ▶ 日本国際博覧会協会は「金額は精査中」と説明
- ▶ 協会の石毛事務総長が西村経産相、吉村府知事らに報告

物価・人件費高 当初比1.9倍

「最大」と述べた。西村氏は3等分の大慶則は堅持したいとの意向を表明。石毛氏は会談後に記者会見し「魅力的な万博にするのがわれわれのミッション。物価上昇は想定外の環境変化で、やむを得ない」と説明。これが想定外の環境変化で、やはり組む」と述べた。

協会によると、今後発注する工事の価格が上昇し、契約済み工事にも物価上昇の影響などを反映し契約金額を増やす「スライド条項」が適用される見込み。527億円増額し、予備費130億円も計上するが、会場デザインの見直しによって157億円を削減する。

協会は海外パビリオン整備の遅れを受けて、建設を代行し費用を一時的に肩代わりする算を提示しているが、必要な費用は含まれていない。

協会は19年1月の設立当初、整備費を1250億円と公表。約2%の田畠で会場を取り囲む木製の巨大環状構造「リンク」の設計変更や学習対策を理由に20年、

2025年大阪・関西万博の会場整備費は再び上振れした。資材費や人件費の高騰が原因だ。運営する日本国際博覧会協会は、コスト膨張に見合った万博の本質的な価値を示しているとは言い難い。海外パビリオンの建設遅れに魯殿される運営面の拙さに加え、説明不足が費用を負担する事業者や納税者の不信を増幅させている。

再び増額 説明欠き不信増幅

△納得は無理

9月下旬、整備費が233

△説明責任

00億円規模に増えた見通しが伝わった。20日夕に協会の石毛博行事務総長が西村康稔経済産業相や吉村洋文大阪府知事らに報告するまで、協会幹部は「金額は精算中」と繰り返すだけだった。割り当てられた費用を輸出するため寄付をかき集めた経済団体からは、「何の説明もない」と不満の声が上がった。

報告終了後に大阪市で記者会見した石毛氏は「精査している段階で対外的に申し上げる状態にならなかつた。できるだけ早く数字をまとめたかった」と説明した。出席者の一人は「詳細は何も分からぬ。これで納得しろというのは無理だ」と語気を強めた。

△イメージ悪化

協会幹部は18日に東京で開いた辰巳パビリオン説明会で「まだまだ東京や全国のメディアに『万博の魅力が伝わり切れていないのが実態だ』と話した。万博の歴史に詳しい名古屋学院大の小林甲一教授（社会政策論）は、万博会議になるよう「協会や関係者がじつかり説明責任を果たす必要がある」と述べた。

大阪・関西万博会場整備費の上振れを巡る最近の動き

- ▶ 会場整備費が2300億円規模に上振れと報道
- ▶ 日本国際博覧会協会は「金額は精査中」と説明
- ▶ 協会の石毛事務総長が西村経産相、吉村府知事らに報告

協会が上振れの要因とした人件費や資材費は上昇を続けている。日本建設業協会（日建連）発行の資料によると、23年9月の建設技能労働者の賃料は21年1月と比べて9.1%上がった。世界的なインフレ傾向で資材価格の高騰も続